

I. 地形分類

富士山	火山噴出物による地形	新期溶岩流	
		旧期溶岩流	
		溶岩流微地形	
		スパター堆積地	
		新期スコリア丘	
		旧期スコリア丘	
		古富士火山斜面	
		溶岩洞穴・風穴	
	火山噴火地形	火口	
		推定火口	
		火口列・割れ目火口	
		火口底	
	侵食地形	崩壊地	
		谷線	
		急崖	
	堆積地	御殿場岩屑なだれ堆積地	
		御殿場岩屑なだれ堆積地(流れ山)	
		御殿場泥流(二次堆積地)	
		古富士泥流堆積地	
		雪代堆積地	
		崖錐	
		土石流堆積地	
		火山麓扇状地(現成)	
	その他	火山麓扇状地	
		岩脈・岩脈群	

富士山以外	富士山	推定火口	
		溶岩円頂丘	
		溶岩流	
		火砕流堆積地	
		火山麓扇状地	
		土石流堆積地	
		愛鷹火山体斜面	
	山地	小御岳火山体斜面	
		箱根火山	
		その他の山地	
	河成・海成地形	河岸段丘	
		扇状地・緩扇状地	
		谷底平野・氾濫原	
		砂州・砂堆、砂丘	
		河川敷、浜	
	変動地形	活断層	
		活断層(位置やや不明瞭)	
		縦ずれ	
		活撓曲	
		推定活断層	
人工地形	地形面の傾動方向		
	盛土・埋土		
	人工改変地		

水部	主な湧水箇所・湿原	
	水涯線、水表面	
界線	地形界	
	不明瞭な地形界	

II. 防災関連施設等

行政・防災担当機関	国・県・市町村の出入機関	○
	市町村役場	▽
	警察署	⊗
	交番・駐在所	X
	消防署	Y
	消防団	Y
防災施設	火山観測施設	
	地震計	■
	G P S	▲
	傾斜計	▼
	ヘリポート	⊖
	砂防施設(砂防堰堤)	≡
道路・鉄道	ビジターセンター・山小屋	台
	主要道路	—
	国道	—
	一般有料道路	—
	高速自動車国道	—
	鉄道	—
行政界	県界	—
	市町村界	—

図－2 火山土地条件図「富士山」の凡例

富士山火山土地条件図作成検討委員会は、2003年7月(第1回)、9月(第2回)、2004年1月(第3回)に開催し、内閣府地震・火山対策担当、中部地方整備局富士砂防事務所調査課などがオブザーバーとして出席している。また、富士市で開催した第2回委員会では、大沢崩れや富士山東斜面の太郎坊などの巡検を行い、委員より現地調査の方法などの指導と助言を受けた。

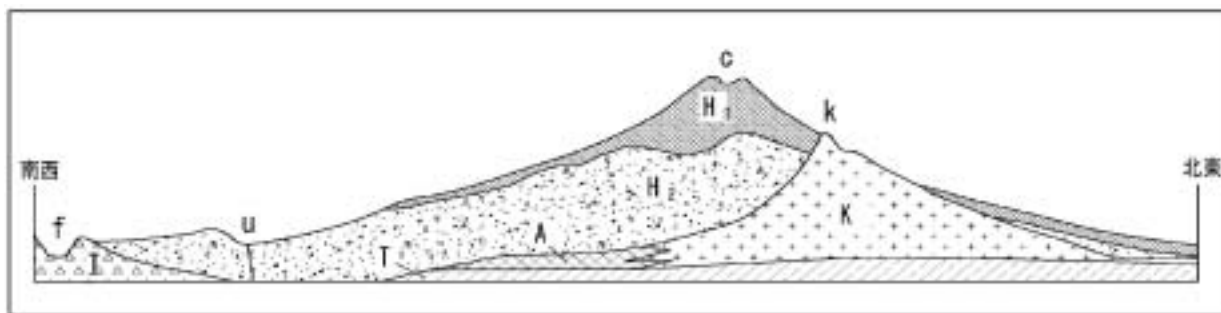
3. 富士山の噴火史と山体形成史

富士山は、箱根火山が活発に噴火していた約10万年前に誕生した火山である。

富士山の形成史は、約10万年前～約1万年前までの古

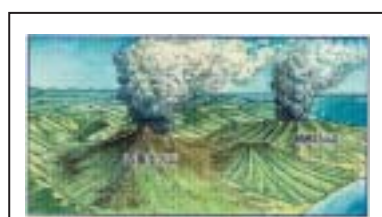
富士の時代と、約1万年前以降の新富士の時代とに分けられる(津屋, 1968)。図3, 4は、小御岳火山や愛鷹火山の一部を覆って古富士火山ができ、さらに新富士火山へと成長してきた様子を模式的に示したものである。

このように現在の富士山は、古富士火山を覆うように成長したと考えられており、本図では覆い残された部分を古富士火山斜面として表示した。古富士火山による噴出物は、現在は断片的に露出するにすぎないが、富士山西麓～南西麓にかけては古富士火山起源の泥流堆積物が広く分布している(古富士泥流堆積地)。これらの泥流堆積物は、古富士火山の山体崩壊や火砕流に伴って発生したものと考えられている。



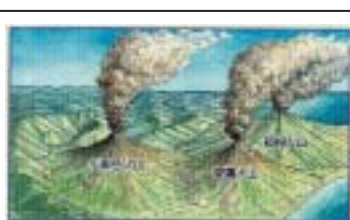
図－3 富士山の模式的な断面図（津屋, 1940 を一部修正）

c 富士山頂, H₁ 新富士火山, H₂ 古富士火山, K 小御岳山, k 小御岳, A 愛鷹火山の一部 I 第四紀層, T 新第三紀層, f 富士川, u 潤井川



古富士火山の時代

約 10 万年前になると、小御岳火山の中腹で古富士火山が噴火を開始しました。古富士火山は爆発的な噴火を繰り返し、少なくとも 5 回の山体崩壊を発生させました。



小御岳火山の時代

今から約 70～20 万年前に、現在の富士山山頂の北側に小御岳火山と呼ばれる火山が誕生しました。



新富士火山の時代

約 1 万年前になると、古富士火山を覆うようにして新富士火山が噴火を開始しました。約 1 万年前～8 千年前ころには、三島市や大月市付近などに到達するような大量の溶岩を流出させました。

図－4 富士山のおたち（富士砂防工事事務所, 2001）

新富士火山による噴出物は、現在の富士山山体の表層を厚く広く覆っているが、このうち溶岩流（例えば、写真－1）については、これまでも多くの調査研究報告があるが、個々の溶岩流の分布や噴出した年代については、未だ多くが不明のままとなっている。

本図では、溶岩流の名称及び分布は原則として津屋（1968）に基づき、さらに最新の知見を加えて、最後の

大規模な山頂噴火による噴出物である約 2200 年前頃の湯船第 2 スコリア（写真－2 赤丸の地層）を基準に、これより新しいもの（新期溶岩流）と古いもの（旧期溶岩流）とに分けて表示した。新富士火山の噴火史は、宮地（1988）及び宮地・小山（2001）によると概ね次の表－1 のようにまとめられる。



写真－1 西麓の大沢川

（標高 1,270m 付近、河床に大沢溶岩が広く露出している）



写真－2 崖に現れた富士山の噴出物

（緑丸の地層：宝永スコリア、赤丸の地層：湯船第 2 スコリア 御殿場口登山道“太郎坊”）